ま・ち・か・どズームIN！

みなさんからのすてきな情報を待ってます！

あそびの名人たちに教わりました
第二幼稚園で「昔あそびの会」

１月28日、昔懐かしいお手玉やかるた、こまなどのあそびを園児たちに教えながら交流しようと、南町地区の「ボランティアみなみの会」の皆さん26人が第二幼稚園を訪問しました。

園児たちは、目を輝かせて「あそびの名人」から遊び方を教わり、思い思いに昔あそびを楽しみました。

紙鉄砲の音が勢いよく鳴ったり、こまが長く回ると、園児たちからは歓声が上がり、おじいさんおばあさんたちも目を細めていました。

新雪に鮮やかなシュプール
南蔵王山麓分校スキー大会

２月５日、福岡小八宮分校・不忘分校・長峰分校と深谷小三住分校の４校合同で、南蔵王山麓分校スキー大会が白石スキー場で開催されました。

大会には４分校合わせて40人の児童が参加。児童たちは、前日から降り積もったふわふわの新雪の上を、鮮やかなシュプールを描いて滑り降りていました。

元気に「鬼は外！福は内！」
旧高甚跡地で大まめまき大会

２月２日、白石まちづくり株式会社が企画して、旧高甚跡地で「白石大まめまき大会」が催されました。

豆まきには、ひかり幼稚園や大鷹沢保育園の園児、角田養護学校白石校の児童など約300人が参加。関係者がふんした鬼が登場すると、一斉に「鬼は外！福は内！」と元気な声を上げながら豆をぶつけました。

園児たちは、鬼が退散したごほうびにプレゼントをもらって大喜び。観客たちにも甘酒などが振る舞われ、季節の伝統行事を楽しみました。

安全安心まちづくり
ふれあいコンサート

白石警察友の会の設立40周年を記念して、１月22日、『“安全安心まちづくり”ふれあいコンサート」がホワイトキューブで開かれました。

出演した宮城県警察音楽隊の皆さんは、演歌や童謡といったメドレー曲や行進曲などを軽快に演奏しました。

曲の合間には、酒酔い運転防止や横断歩道のわたり方などの楽しい寸劇が披露され、隊員による見事なマジックショーも会場を沸かすなど、舞台と満員の客席が一つになった素晴らしいコンサートでした。

交流を通して世界平和を
ユネスコ新春パーティー

交流を通して市内外の外国人や会員間の理解や親睦を深めることなどを目的に、２月１日、白石ユネスコ協会主催の新春パーティーが中央公民館で開催されました。

パーティーには、市内企業の研修生なども参加して、100名を超える参加者で賑わいました。

白石ユネスコ日本語教室で学ぶ４名による、友だちや仕事、方言など、日本での生活の体験発表のほか、日舞や各国の歌なども披露され、会場から盛んな拍手を受けていました。

新成人たちを激励しました
手をつなぐ育成会「成人を祝う会」

障害を持つ子どもの親たちなどでつくる白石市手をつなぐ育成会が主催して、１月18日、「成人を祝う会」が中央公民館で開催され、新成人たちを激励しました。

今年成人を迎えたのは、八巻広明さんと八乙女裕也さんです。お二人は蔵王すずしろ（蔵王町）に勤務され、元気に頑張っています。

八巻さんと八乙女さんは、は来賓からの祝辞や記念品贈呈に続き、「新成人になってとてもうれしいです。これからもよろしくお願いします」と力強くあいさつしていました。

いつまでもお元気で
片岡愛子さんに特別敬老祝金

２月21日に満100歳の誕生日を迎えた片岡愛子さんを、川井市長が入所先の特別養護老人ホーム「えんじゅ」に訪ね、祝詞と特別敬老祝金10万円を贈り、長寿を祝福しました。

片岡さんは、明治37年に遠田郡涌谷町でお生まれになり、現在の東京家政大学を卒業後、家庭科の教師として活躍され、その後白石の片岡家に嫁がれました。

ご家族や親戚、職員の皆さんから祝福された片岡さんは、「夢のようです」と心境を語っておられました。

JR白石駅・白石蔵王駅
コンコースに流れる「蔵王のうた」

長く登山愛好家や地域の人々に愛唱されてきた、『われらうたうみちのくに…』のフレーズで始まる「蔵王のうた」は、昨年さとう宗幸さんが出演したコンサートが開かれたり、テレビでもたびたび紹介されたりと再び脚光を浴びました。

昨年12月から、JR白石駅と白石蔵王駅のコンコースでは、白石キューブ合唱団の皆さんの歌唱による「蔵王のうた」の美しいメロディーが流れ、利用者からも好評を得ています。

◀白石蔵王駅コンコース

川井市長の せせらぎトーク
「文殊の知恵」

最近かわいいハガキが届く。「ぼくはサッカーが好きな六年生です。ぼくが雨や雪の日でもサッカーができるように、芝生のサッカー場を作ってください。お願いします」。中には、文章を書かず、グリーンの土にサッカーボールと足の絵が描いてあるものもあった。

気持ちはよく分かる。学校のグラウンドでやっていても、他の競技の邪魔になるといって、追い出されることもあるらしい。でも、まともにサッカー場を作れば何億円とかかってしまう。

子どもたちの願いはかなえてやりたい。しかし、問題は三つある。

第一に今時、数億の予算を単費で、つまり全額市民の税金で出すことは、白石の財政運営の健全性を保つ上でも、やるべきではない。第二に芝生では手入れが大変だ。毎年一千万円の費用がかかる。第三に大面積の用地がなかなか見つからない。地権者の了解も大変だ。子どもたちの願いのために、みんなで知恵を絞ろうということになった。三人寄れば文殊の知恵である。

教育委員会が言い出した「アツギナイロンの工場の向かいの河川敷のグラウンドが草ぼうぼうになっている。もう、アツギも、本郷第三自治会も使っていないようだ。一部野菜を作っている人たちがいるが、この人たちは子どもたちの願いをかなえるために、河川敷内の場所を変えて耕作するのであれば、協力してもらえるのではないだろうか」『了解。河川敷は県の管理だ。すぐに県に行って協議をし、占用許可をもらって来てくれ』。土木部が県に行って来た。「耕作者の移転の了解は、市が取ってください。もう一つ、あの場所は県警のヘリポートに指定されていますが、警察と協議をすれば変更は可能でしょう」との返事。

芝生のサッカー場というのは維持費が大変である。年間一千万円ずつの維持費を、市で継続的に出すということは難しい。サッカー協会にその力があるとは思えない。芝生は養生期間が必要なので、年中練習するわけにもいかない。ご承知のように、テニスコートは庭球協会に自主的に管理してもらっている。それは、人工芝を使っているからである。『河川敷にある人工芝のサッカー場で、国の補助をもらっているのはないだろうか』。都市計画課が探し当てた「あります、あります」。前例があれば可能だろう。

さて、土地の問題と、芝の問題は片が付いた。今度は補助金だ。国の行革で補助金は大幅にカットされている。あっても雀の涙程度だ。商工観光課が言い出した。「工業再配置補助金があります。平成十四年度に、ソニーの第三工場が誕生しました。企業進出が少ない時期ですので、可能性に挑戦してみます」『そうか、ダメモトだ。すぐ東北経済産業局に交渉してくれ』

私は仕事始めで言った。『人口減少、少子高齢化の時代に勝ち抜くには、他に優れた文化や自然を持たなければなりません。それは、我々が海図なき航海に踏み出すことです。その航海を進めて行くには、諸君の一人ひとりが、新しい創造にチャレンジすることが必要です』。

補助金や交付税が削減されるのは当然だからとあきらめず、では何があるのかを考える攻めの姿勢で、子どもたちの希望するサッカー場ができることを期待したい。